

# 岡山県感染症週報 2014 年 第 21 週 (5 月 19 日～5 月 25 日)

6 月 1 日～6 月 7 日は『HIV 検査普及週間』です。

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ◆2014 年 第 21 週 (5/19～5/25) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 20 週	2 類感染症	結核	2 名 (50 代 男 1 名、60 代 男 1 名)
第 21 週	2 類感染症	結核	3 名 (40 代 女 1 名、60 代 男 1 名、70 代 女 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 名 (O157: 60 代 男 1 名・女 1 名)
	4 類感染症	A 型肝炎	1 名 (50 代 男)
		重症熱性血小板減少症候群	1 名 (60 代 男)

### ■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 61 名 (定点あたり 1.54 → 0.73 人) の報告があり、前週より減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 579 名 (定点あたり 11.76 → 10.72 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

1. **重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** は、1 名の報告がありました。岡山県では今年初めての感染確認です。SFTS について詳しくは『[今週の注目感染症](#)』および岡山県感染症情報センターホームページ「[【注意!】岡山県内で『重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)』の発生がありました](#)」をご覧ください。SFTS をはじめ日本紅斑熱、つつが虫病などのダニ媒介性感染症は、病原体を媒介するダニ類の活動が活発になるこれからのシーズンには、特に注意が必要です。ダニ媒介性の感染症について詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[ダニが媒介する感染症に注意しましょう](#)」をご覧ください。
2. **腸管出血性大腸菌感染症** は、2 名の報告があり、今年は第 21 週までに 10 名が報告されています。過去 5 年の同時期とほぼ同数の発生ですが、例年 5 月頃から報告数が徐々に増加する傾向があります。肉の生食は避け、中心部まで十分に火を通す、調理時は手指をこまめに洗うなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
3. **感染性胃腸炎** は、県全体で 579 名 (定点あたり 11.76 → 10.72 人) の報告があり、前週よりわずかに減少しましたが、過去 10 年の同時期と比較して、もっとも患者数が多い状態で推移しています。感染性胃腸炎による学校等の臨時休業は 2 施設でありました。倉敷市では、3 週連続で発生レベル 3 となっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは「[感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。
4. **インフルエンザ** は、県全体で 61 名 (定点あたり 1.54 → 0.73 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、真庭地域 (2.00 人)、備北地域 (1.83 人)、備中地域 (1.58 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は 1 施設でありました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ情報](#)」をご覧ください。全国の第 20 週の発生状況を見ると、定点あたり 0.83 人であり、第 17 週以降、4 週連続で減少しました。

## ワールドカップ観戦でブラジルへ渡航される方へ

2014 年 6 月 12 日～7 月 13 日にかけて、ブラジルでワールドカップが開催されます。ブラジルへ渡航される方で、流行地域に行かれる場合は、『**黄熱**』の予防接種をご検討ください ([全国 25 カ所の接種機関のみで実施](#))。

黄熱は、蚊によって媒介され感染する感染症です。発症すると、発熱、寒気、頭痛、吐き気などの症状を伴い、場合によっては死にいたることもあります。渡航の 10 日前までにワクチン接種を済ませておきましょう。また、蚊に刺されないように長袖、長ズボンの着用、虫よけスプレーなど使用しましょう。

[ワールドカップ観戦でブラジルへ渡航される方へ \(厚生労働省検疫所\)](#)

## 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↓	
咽頭結膜熱	→	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	→	★★★★★	水痘	↗	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	→	
突発性発疹	↗	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	↑	★	流行性角結膜炎	↓	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓				

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ : 2倍以上の減少    ↘ : 1.1~2倍未満の減少    → : 1.1未満の増減  
 ↗ : 1.1~2倍未満の増加    ↑ : 2倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし    ★: 僅か    ★★: 少し    ★★★: やや多い    ★★★★: 多い    ★★★★★: 非常に多い  
 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

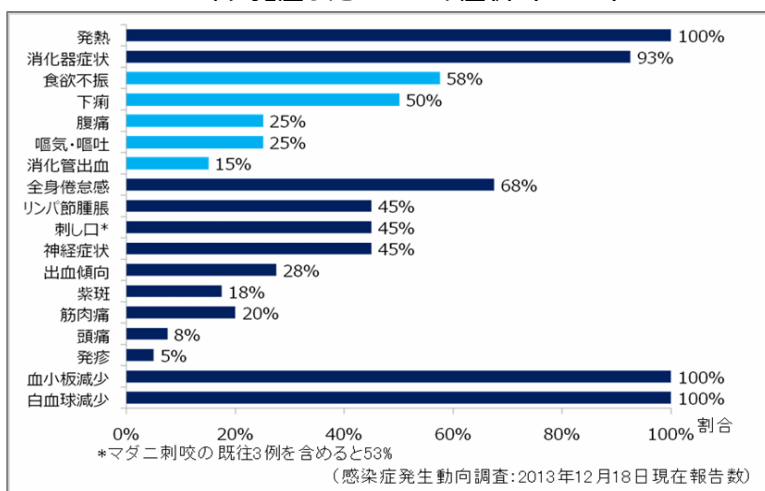
感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成25年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

## 今週の注目感染症

### 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は、2011年に初めて特定された SFTS ウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染し、引き起こされる疾患です。感染すると6日~2週間の潜伏期間を経て、原因不明の発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多く見られ、検査所見上は白血球減少、血小板減少などが認められます。重症の場合は、肝腎障害や多臓器不全をきたして死に至ることもあります。現在のところ、有効な治療薬やワクチンはありません。

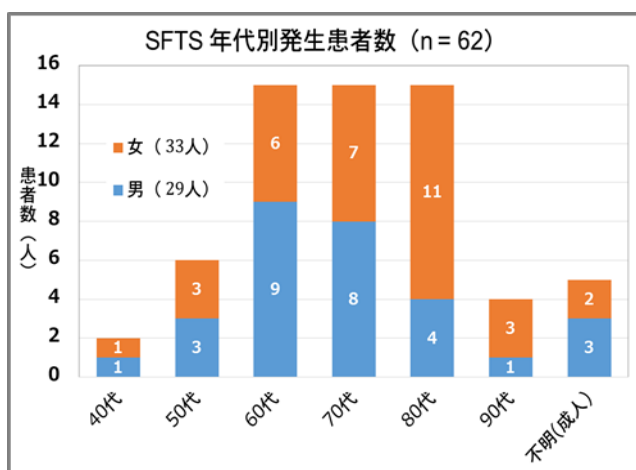
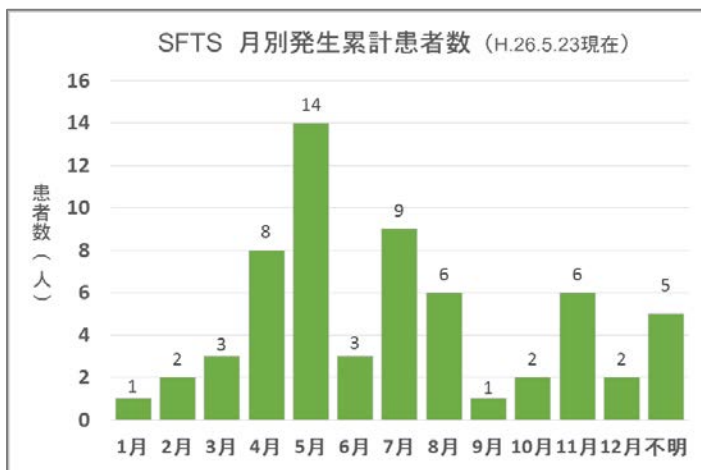
2013年に発症した SFTS の症状 (n =40)

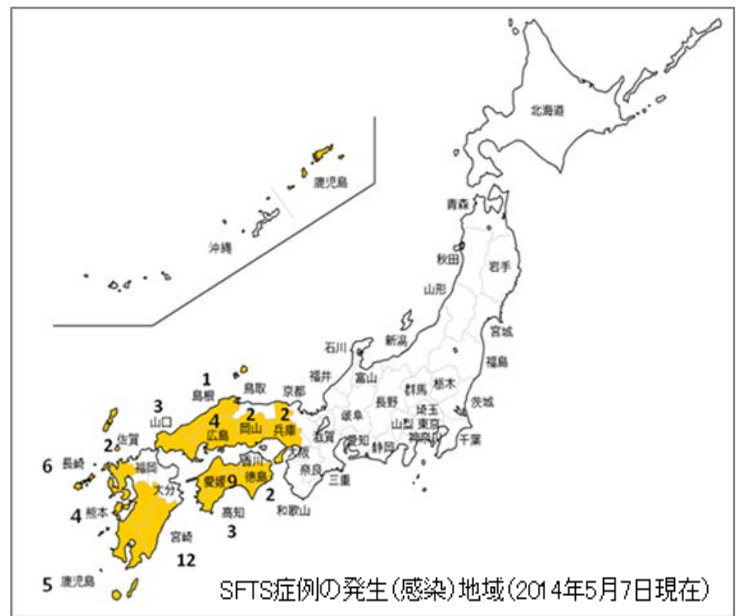
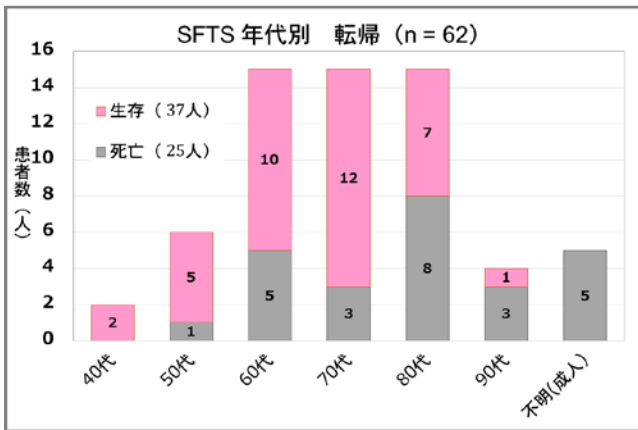


### 【全国の SFTS 発生状況】

(国立感染症研究所)

H26年5月23日現在、全国で発症した SFTS 累計患者数は 62 例です。月別発生患者数は 5 月が最も多く、西日本を中心に発生しています。年齢は 40 代以上の患者が報告されており、生存 37 例、死亡 25 例でした。





(国立感染症研究所 ウイルス第一部・感染症疫学センター)

[2013年に発症した重症熱性血小板減少症候群40例のまとめー感染症発生動向調査よりー \(国立感染症研究所\)](#)  
[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) \(国立感染症研究所\)](#)  
[日本における重症熱性血小板減少症候群 \(国立感染症研究所\)](#)

### 【感染予防】

県内でもウイルス保有マダニが広く分布している可能性が考えられます。SFTSウイルスに感染しないためには、マダニに咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、咬まれる危険性が高まります。作業やレジャーなどで、野山や草むら、河川敷などに立ち入る時には、肌を露出しない服装（長袖、長ズボン、手袋等）で防虫スプレーを噴霧などしましょう。帰宅後は、すぐに入浴し体をよく洗いましょう。その時、マダニに咬まれていないか確認してください。脇の下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛のなか）などがポイントです。マダニは長時間吸血しますが、ほとんど痛みやかゆみを感じないため、咬まれたことに気づかないことが多いと言われています。

### 【マダニに咬まれたら】

マダニが皮膚に付いていることに気がついた場合、皮膚科等の医療機関で適切な処置（マダニの除去や消毒等）をしてもらってください。これは、吸血中のマダニを無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残り化膿したり、病原体を注入させる恐れがあるためです。その後2週間程度は、体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、速やかに医療機関を受診してください。その時、野山や草むら、河川敷などに立ち入る機会があったことを伝えてください。

### < 予防のポイント >

- ・草むらなどに入るときには、腕・足・首などの肌が露出を少なくしましょう。長袖、長ズボン、手袋、足を完全に覆う長靴等を着用してください。
- ・服の上や肌の露出部分に、防虫スプレーを噴霧しましょう。
- ・草の上に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりするのはやめましょう。
- ・野外活動後は、すぐに入浴し、体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、マダニが肌に付いていないかチェックしてください。
- ・脱いだ衣服はすぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

[マダニに注意! \(岡山県チラシ\)](#)

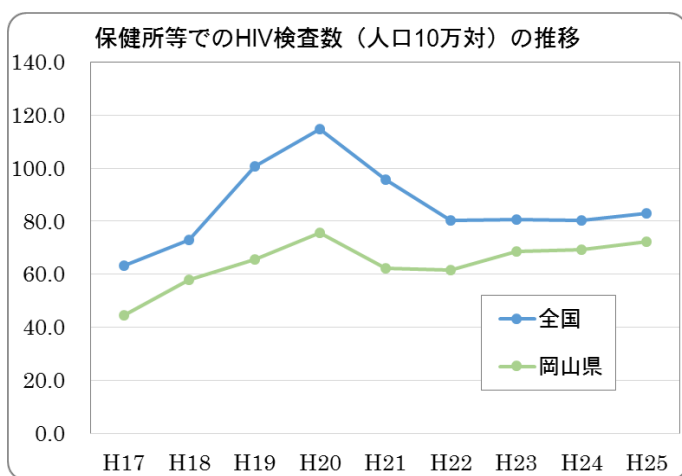
[マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

## 平成 26 年度 HIV 検査普及週間の実施について（6 月 1 日～6 月 7 日）

### 『受けよう！エイズ検査 愛する人のために、そして自分のために』 6 月 1 日～7 日は『HIV 検査普及週間』です。

平成 25 年の国内における新規の HIV 感染者及び AIDS 患者は 1,590 人でした。そのうち新規 AIDS 患者数は 484 件で前年（447 件）より増加しており、過去最多となりました。これは、「いきなりエイズ」が新規 HIV 報告数の約 3 割を占めており、HIV 検査が未だ十分に行き届いていないことが示唆されています。「いきなりエイズ」とは HIV 感染後 AIDS 発症まで数年程度かかるにもかかわらず、AIDS 発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。岡山県では、感染者・患者発生中心世代が 20～40 代で、「いきなりエイズ」が多い状況であったため、昨年度から『おかやまエイズ感染防止作戦』を実施しています。



岡山県の保健所等で HIV 検査を受けられた人の数はやや増加してきていますが、全国に比べて少ない状況です。

HIV に感染した段階では自覚症状がなく、気付かないうちに大切な人にうつしてしまうかもしれません。また、AIDS を発症してしまうと治療も難しくなります。発症する前に適切な治療を開始できれば、他の慢性疾患と同じように定期的に通院することで、コントロール可能な病気となっています。

HIV 検査普及週間は、『おかやまエイズ感染防止作戦』の重点実施期間として啓発を進めています。

[HIV 検査普及週間でエイズについて取組を行います](#)（岡山県 報道発表資料）

**HIV 検査普及週間（6 月 1 日～6 月 7 日）では、  
岡山県内の保健所・支所で、定例日以外や夜間等に検査を実施しています。**

○県内の保健所・支所における HIV 検査普及週間関連検査等実施日時はこちらから

[【平成 26 年度 保健所における HIV 検査普及週間関連検査等実施日時】](#)

検査は無料・匿名で受けることができ、通常検査では 1 週間後、迅速検査では 1 時間後に結果をお知らせしています。検査の予約は、検査実施日前日 17 時まで受け付けており、岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒・性器クラミジア・B 型肝炎・C 型肝炎の検査も同時に受けることができます。HIV 検査は、感染機会のあった日から、3 ヶ月経過していることが必要です。

※月曜日に検査を実施する保健所・支所については、前週金曜日の 17 時まで予約が必要です。

※岡山市保健所及び美作保健所については、当日 12 時まで予約が可能です。

※倉敷市保健所は 6 月 1 日（日）予約不要で、先着 50 名で受け付けています。

県内 10 カ所のエイズ治療拠点病院でも検査を受けられます。

○エイズ治療拠点病院における HIV（エイズ）検査日時はこちらから

[【平成 26 年度 エイズ治療拠点病院における HIV（エイズ）検査実施日時】](#)

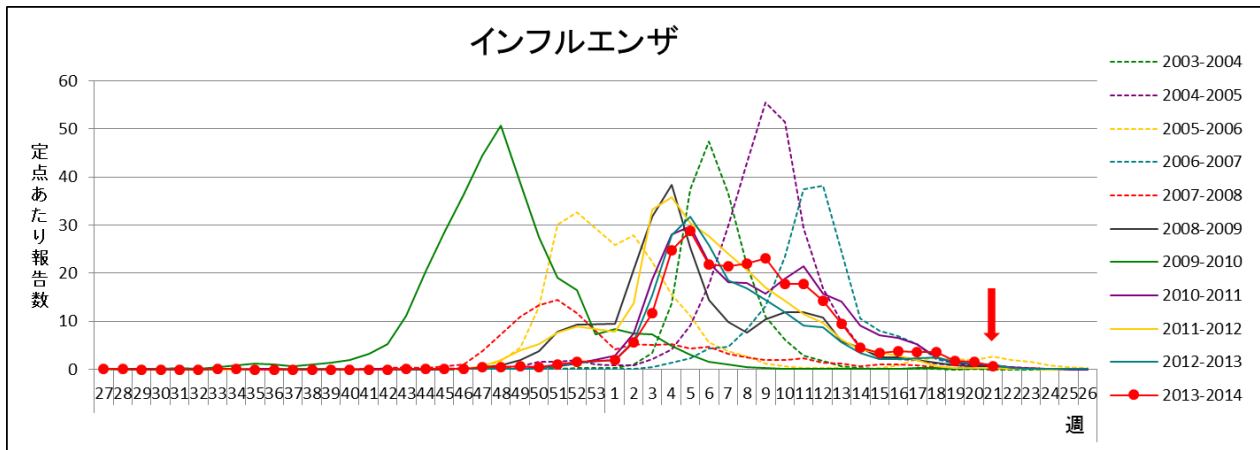
いずれの拠点病院でも一律 1000 円で受けられます（要予約）。検査は匿名では受けられませんが、検査結果は受けた日（約 1～2 時間後）にお知らせしています。検査は感染の機会のあった日から、8 週間以上経過していることが必要です。

# インフルエンザ情報 2014 年 第 21 週 (5 月 19 日 ~ 5 月 25 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 61 名（定点あたり 1.54 → 0.73 人）の発生があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。
- 井原市内の中学校 1 校で、インフルエンザとみられる臨時休業がありました。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 61 名（定点あたり 1.54 → 0.73 人）の発生があり、前週より減少しました（84 定点医療機関報告）。地域別では、真庭地域（2.00 人）、備北地域（1.83 人）、備中地域（1.58 人）の順で定点あたりの報告数が多くなりました。

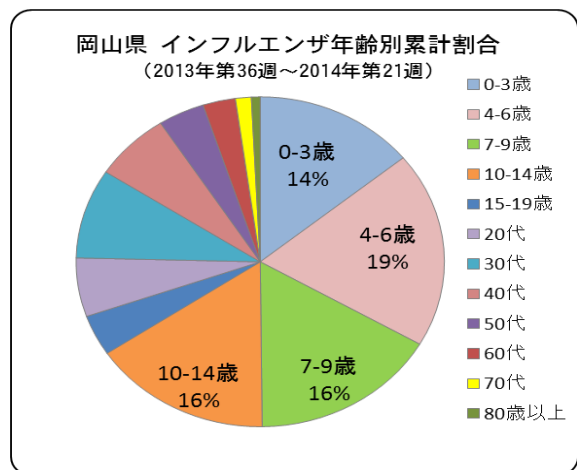
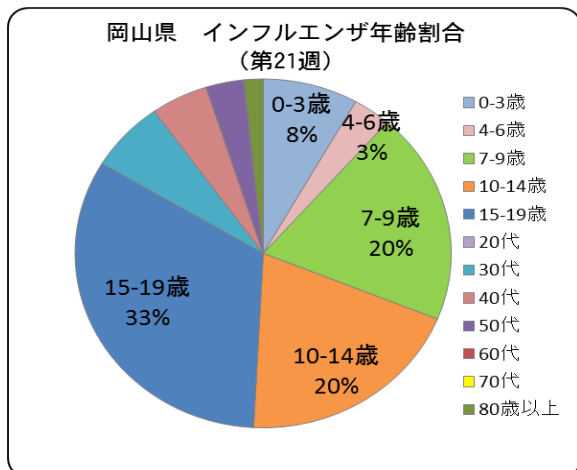
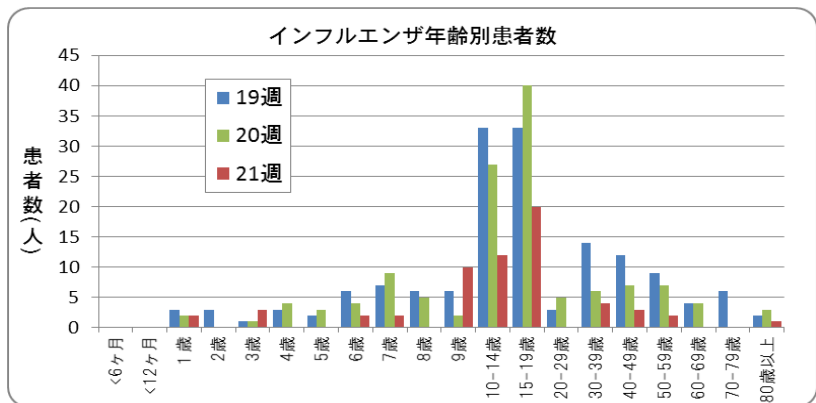
岡山県ではひきつづき「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図っています。手洗い・うがいなど感染予防を心がけましょう。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

※注意報の解除基準:2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合

## 1. 年齢別発生状況

第 21 週年齢別割合は、15-19 歳 33%、7-9 歳及び 10-14 歳 20%、の順で多くなっており、小学生・中学生・高校生に該当する年齢層が多くを占めています。学校の臨時休業も報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。

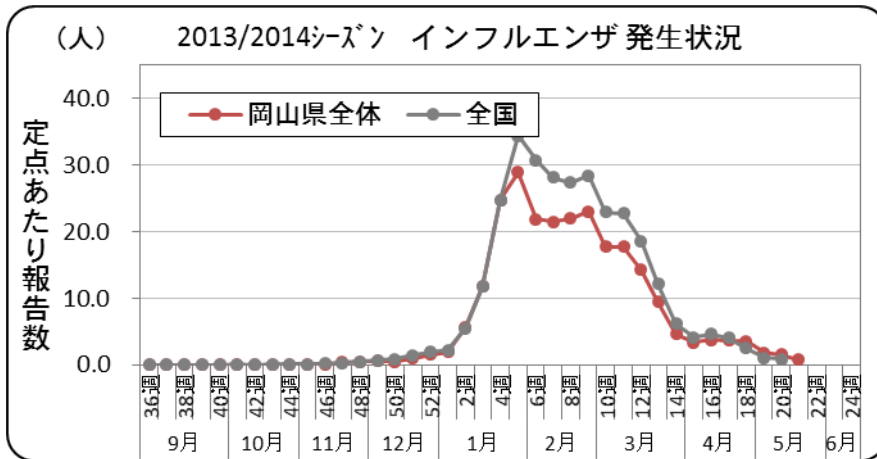


## 2. 地域別発生状況

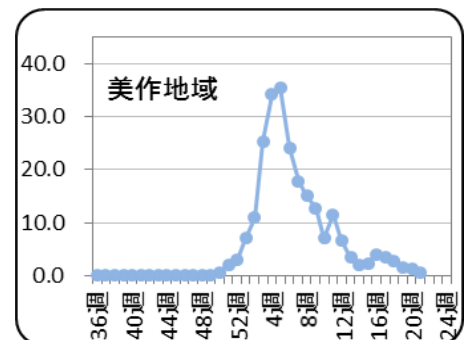
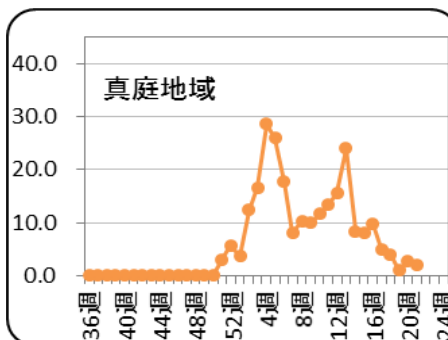
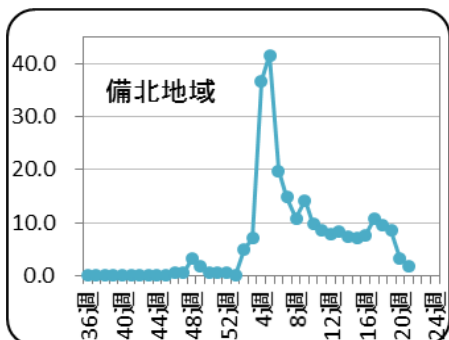
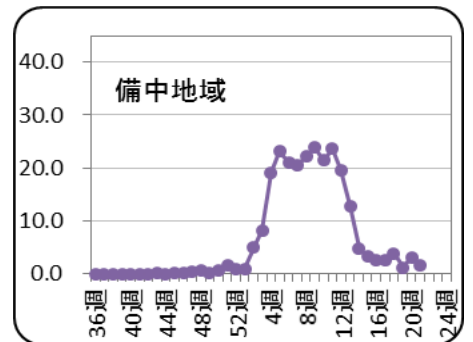
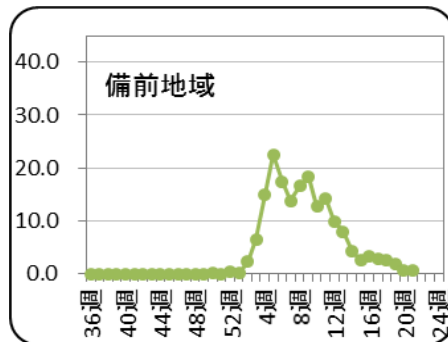
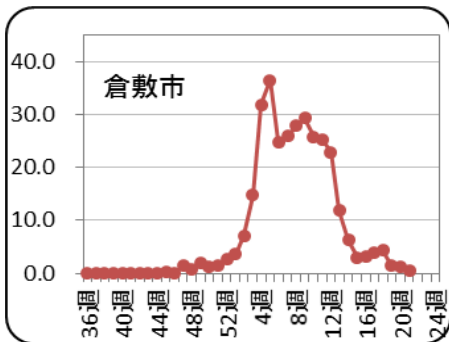
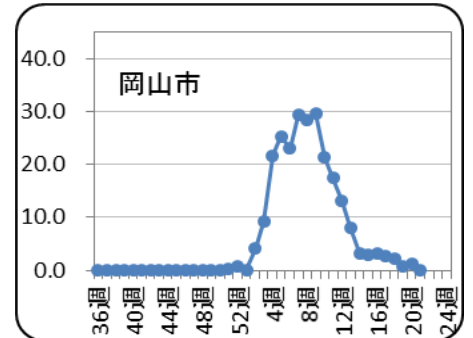
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況	推移	地域名	発生状況	推移
岡山県全体	患者数	61	備 中	患者数	19
	定点あたり	0.73		定点あたり	1.58
岡山市	患者数	2	備 北	患者数	11
	定点あたり	0.09		定点あたり	1.83
倉敷市	患者数	7	真 庭	患者数	6
	定点あたり	0.44		定点あたり	2.00
備 前	患者数	10	美 作	患者数	6
	定点あたり	0.67		定点あたり	0.60

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →  
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第20週(5/12～5/18)速報値によると、全国では定点あたり0.83人であり、第17週以降、4週連続で減少しました。地域別では、沖縄県(8.05人)、岩手県(4.25人)、長野県(2.08人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、38都道府県で前週より減少しています。



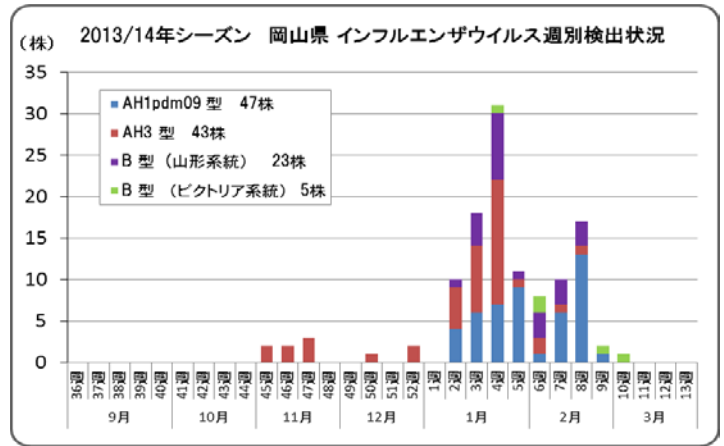
### 3. インフルエンザウイルス検出状況

第21週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が47株(40%)、AH3型が43株(36%)、B型が28株(24%)となっています。

[\(岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況\)](#)

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型44%、B型35%、AH3型21%の順に多く検出されています。しかし、最近5週間(16週~20週)の検出割合では、B型、AH1pdm09型の順となっています。(平成26年5月28日現在)

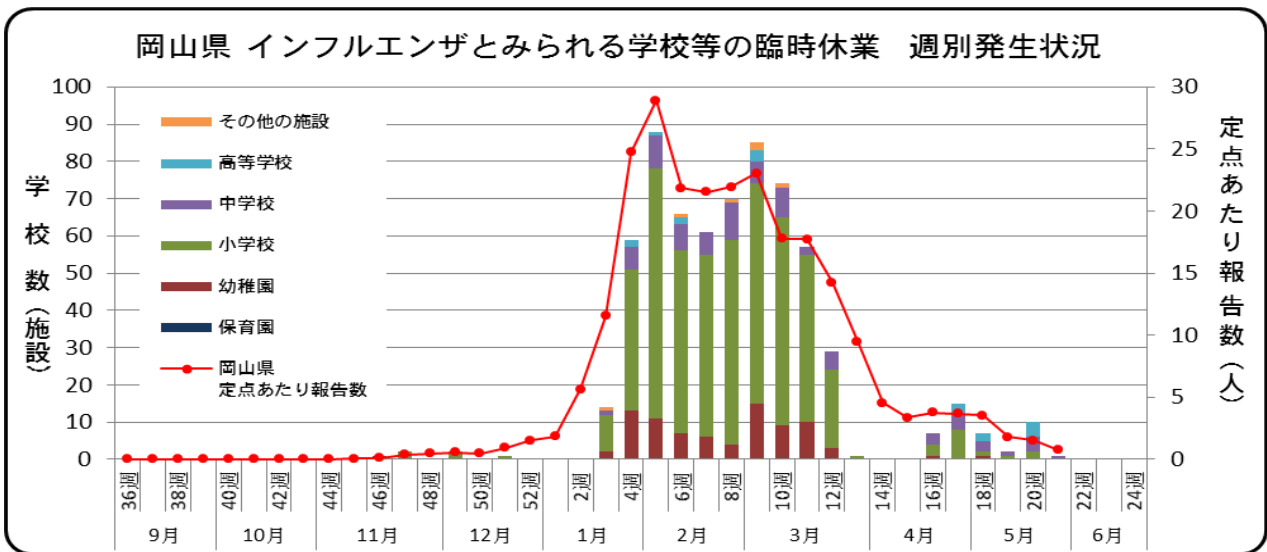
[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)\)](#)



### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業は1施設でありました。

【第21週 臨時休業施設数】 ▽井原市 1



#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>22</b>	<b>9513</b>	<b>17</b>	<b>7200</b>	<b>1</b>	<b>652</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>1</b>	<b>181</b>	<b>0</b>	<b>453</b>	<b>H25. 11. 13</b>
岡山市	0	3874	0	2811	0	233	0	3	0	35	0	195	H26. 1. 14
倉敷市	0	1621	0	1289	0	117	0	1	0	22	0	94	H25. 11. 18
備前地域	0	766	0	623	0	69	0	1	0	35	0	33	H26. 1. 16
備中地域	22	1344	17	1040	1	99	0	0	1	25	0	74	H25. 11. 13
備北地域	0	347	0	223	0	20	0	6	0	9	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	0	160	0	127	0	17	0	0	0	12	0	5	H26. 1. 27
美作地域	0	1401	0	1087	0	97	0	7	0	43	0	47	H25. 12. 20

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

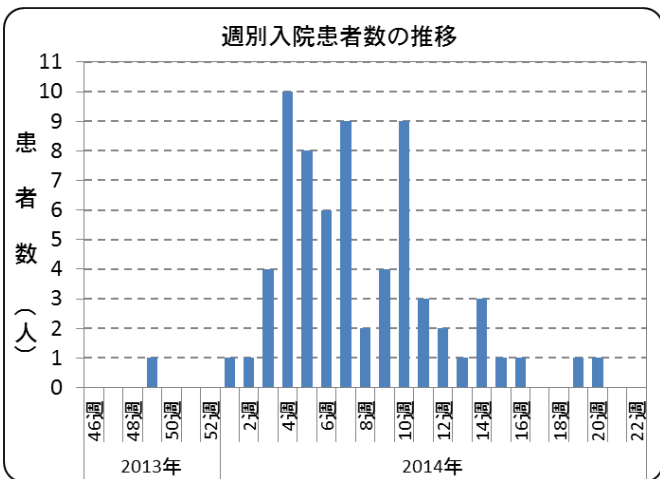
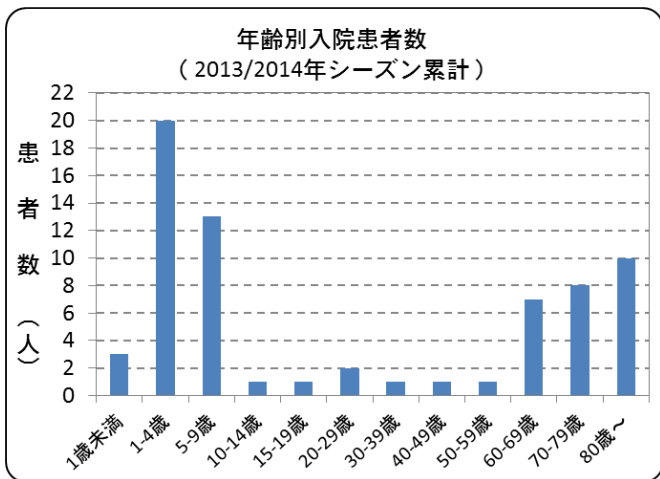
第21週：1施設 累計：652施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	83	0	470	1	76	0	17	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

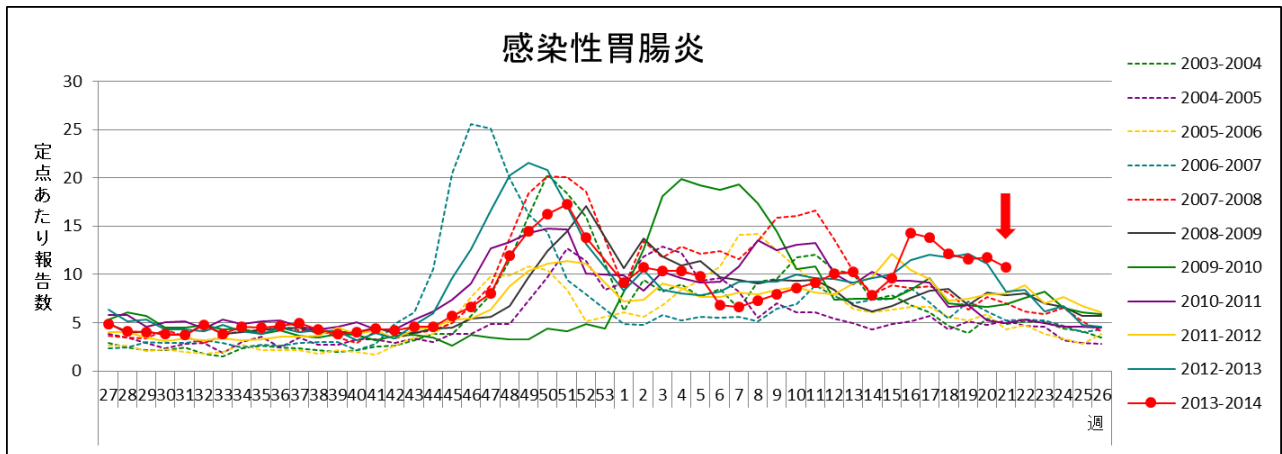
年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	20	13	1	1	2	1	1	1	7	8	10	68
ICU入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査(予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	9	55

\* 重複あり



# 感染性胃腸炎情報 2014 年 第 21 週 ( 5 月 19 日 ~ 5 月 25 日 )

- 感染性胃腸炎は、県全体で 579 名（定点あたり 11.76 → 10.72 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。
- 感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が、2 施設でありました。



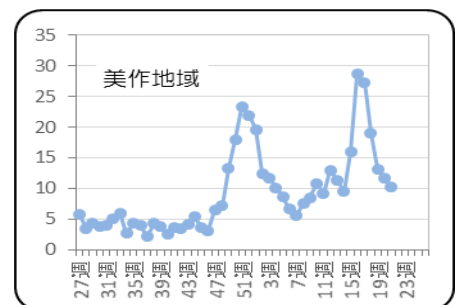
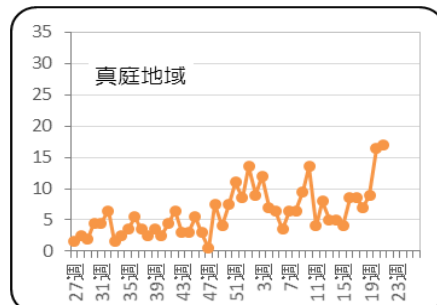
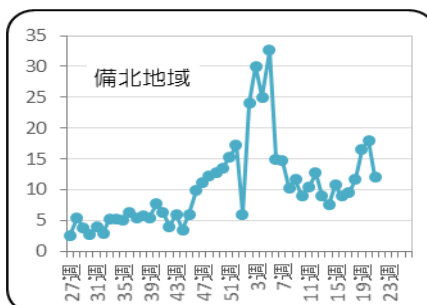
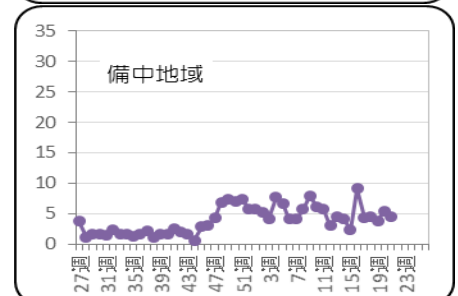
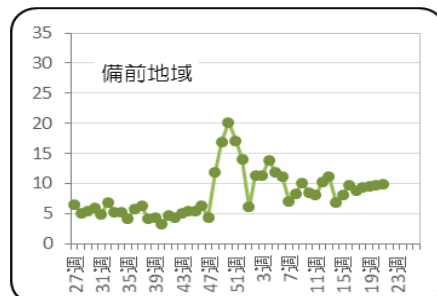
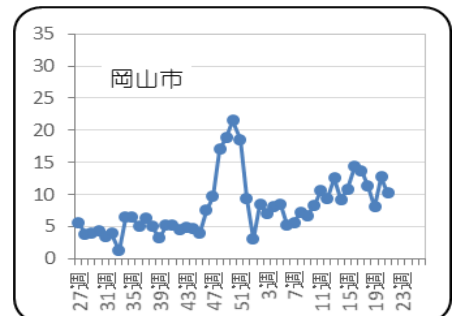
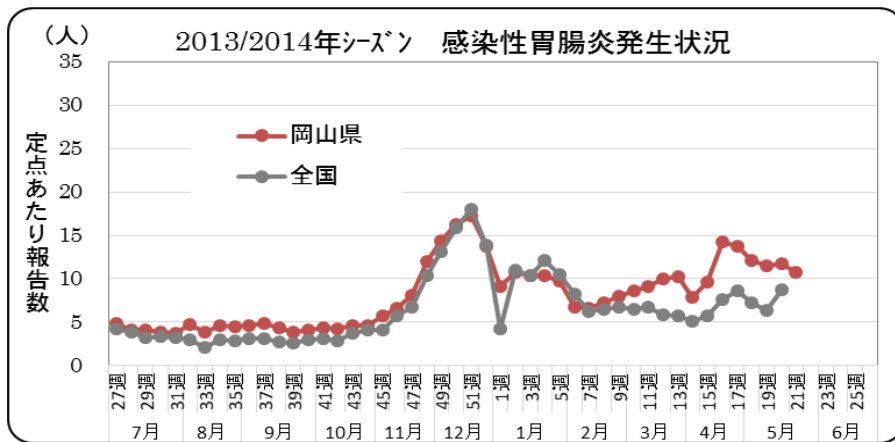
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

**感染性胃腸炎**は、県全体で 579 名（定点あたり 11.76 → 10.72 人）の発生があり、前週よりわずかに減少しましたが、過去 10 年の同時期と比較して、もっとも患者数が多い状態で推移しています。倉敷市及び美作地域の学校で臨時休業が 2 施設ありました。

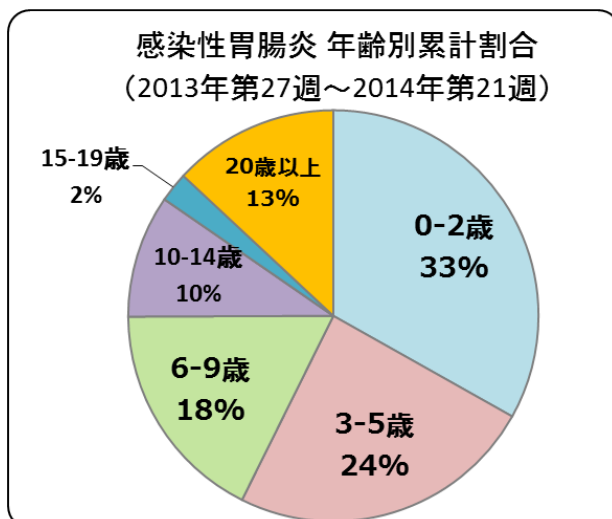
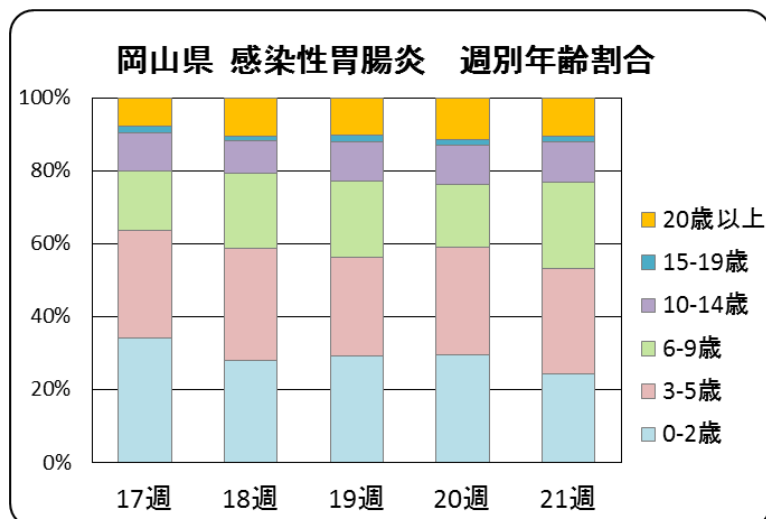
冬～春にかけての感染性胃腸炎の原因はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

[○ロタウイルスに関する Q&A \(厚生労働省\)](#)



## ◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、真庭地域（17.00人）、倉敷市（14.64人）、備北地域（12.00人）の順で定点あたり報告数が多くなりました。倉敷市では、3週連続で発生レベル3となっています。年齢別累計割合では、0-2歳の年齢層が全体の33%を占めています。

例年3～5月には、0-2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。嘔吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[\(IASR Vol.35 p.63-64: 2014年3月号 ロタウイルス 2010～2013年\)](#)（国立感染症研究所）

### ◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2014年 21週 (2014/05/19～2014/05/25)

2014年5月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	61	0.73	2	0.09	7	0.44	10	0.67	19	1.58	11	1.83	6	2.00	6	0.60
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	30	0.56	13	0.93	3	0.27	1	0.10	-	-	2	0.50	1	0.50	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	99	1.83	59	4.21	19	1.73	3	0.30	6	0.86	-	-	2	1.00	10	1.67
感染性胃腸炎	579	10.72	143	10.21	161	14.64	100	10.00	31	4.43	48	12.00	34	17.00	62	10.33
水痘	36	0.67	22	1.57	8	0.73	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	0.54	13	0.93	7	0.64	4	0.40	1	0.14	1	0.25	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	0.19	6	0.43	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	3	0.21	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 21週 (2014/05/19～2014/05/25)

2014年5月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	61	0.73	2	0.09	7	0.44	10	0.67	19	1.58	11	1.83	6	2.00	6	0.60
咽頭結膜熱	30	0.56	13	0.93	3	0.27	1	0.10	-	-	2	0.50	1	0.50	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	99	1.83	59	4.21	19	1.73	3	0.30	6	0.86	-	-	2	1.00	10	1.67
感染性胃腸炎	579	10.72	143	10.21	161	14.64	100	10.00	31	4.43	48	12.00	34	17.00	62	10.33
水痘	36	0.67	22	1.57	8	0.73	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
手足口病	4	0.07	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	0.19	6	0.43	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	0.15	3	0.21	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	1	0.08	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	-	-	-	-	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2  
を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2014年 第21週 2014/05/19～2014/05/25 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	61	-	-	2	-	3	-	-	2	2	-	10	12	20	-	4	3	2	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	30	1	2	6	6	4	4	2	2	-	-	1	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	99	1	2	2	6	5	12	14	18	8	9	5	8	1	8
感染性胃腸炎	579	4	27	58	51	62	62	43	45	39	34	20	64	8	62
水痘	36	1	4	7	7	1	3	2	3	3	-	4	1	-	-
手足口病	4	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	29	-	15	12	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	10	-	-	3	3	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-
流行性耳下腺炎	8	-	-	-	1	1	-	2	-	2	2	-	-	-	-

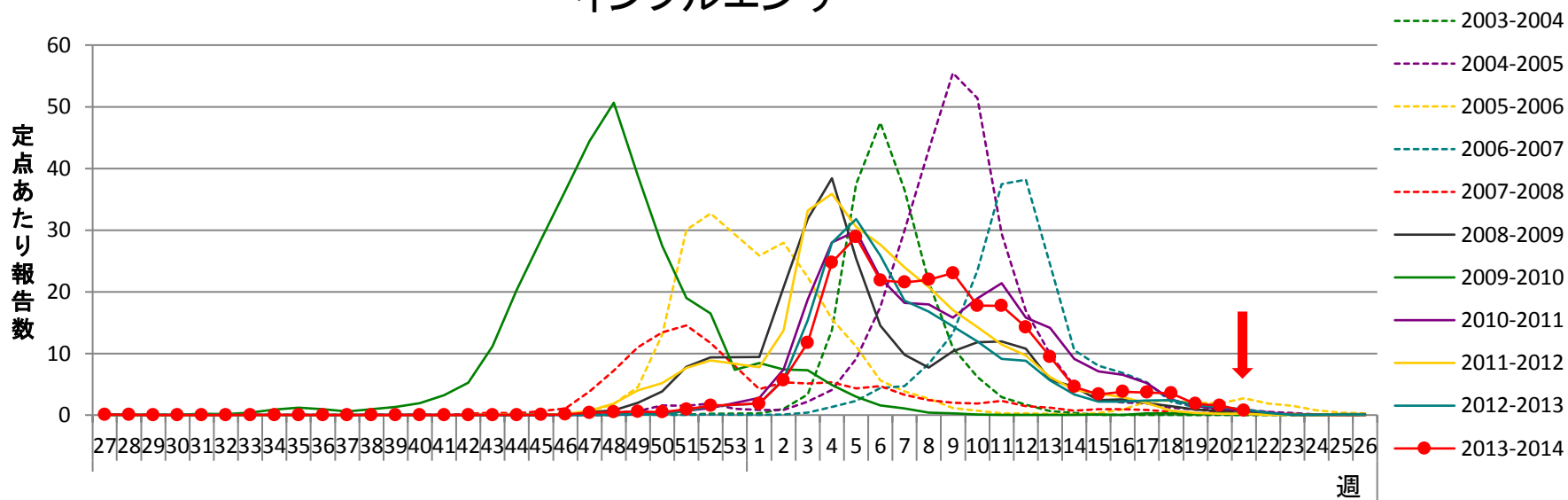
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

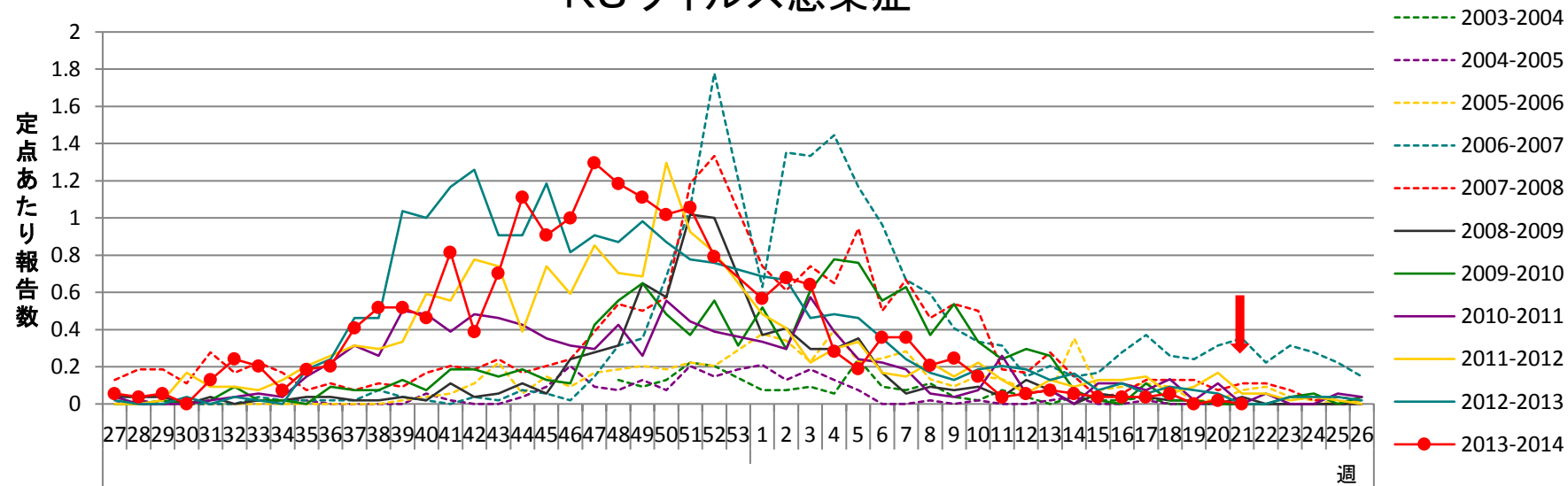
( - : 0 )



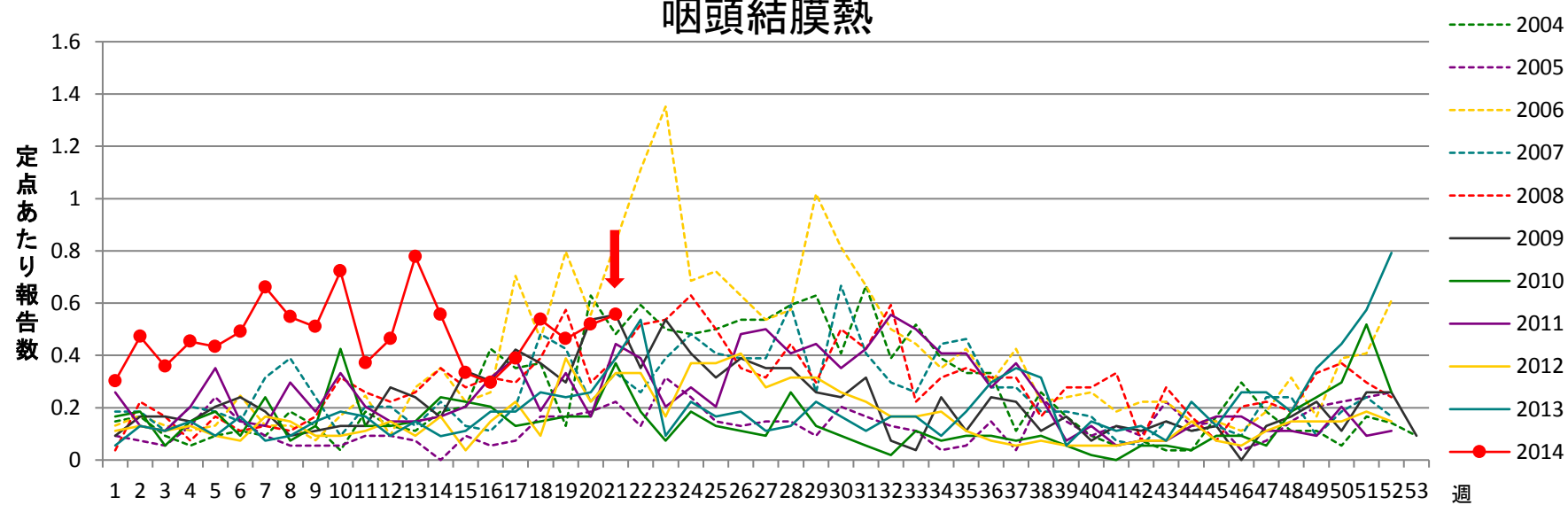
### インフルエンザ



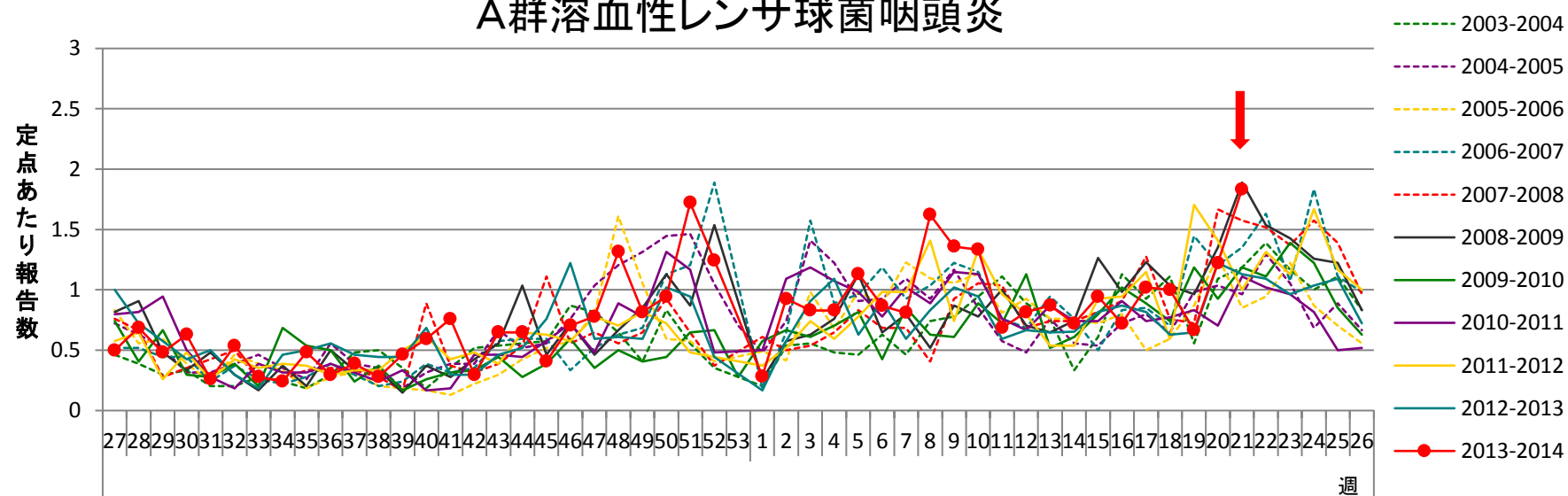
### RSウイルス感染症



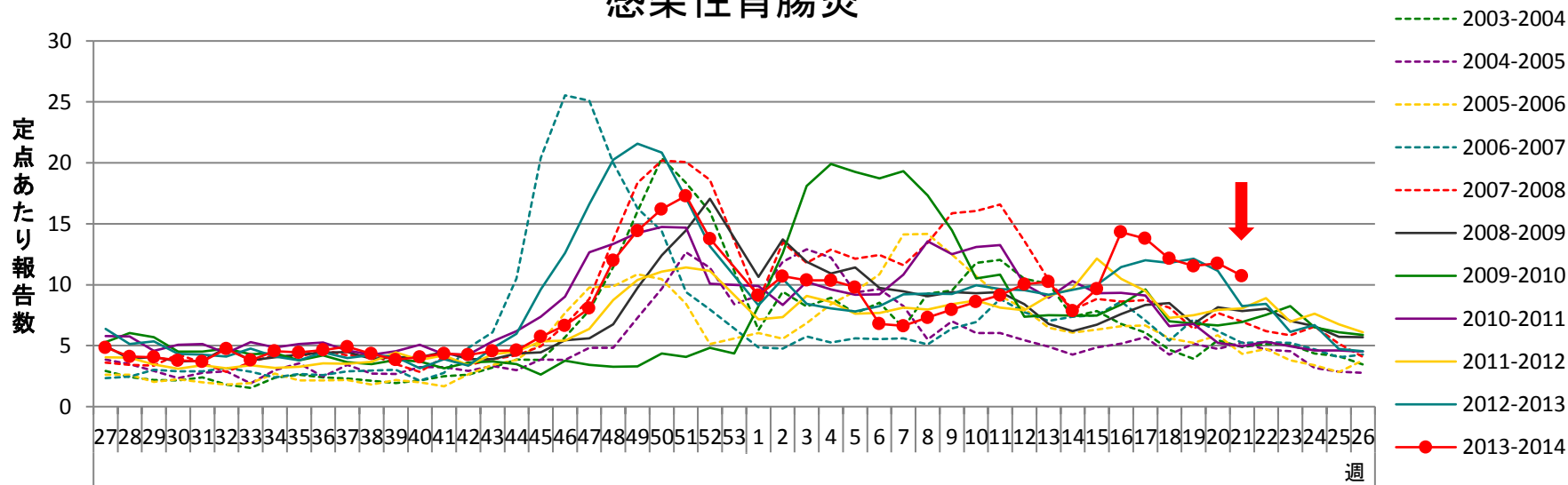
### 咽頭結膜熱



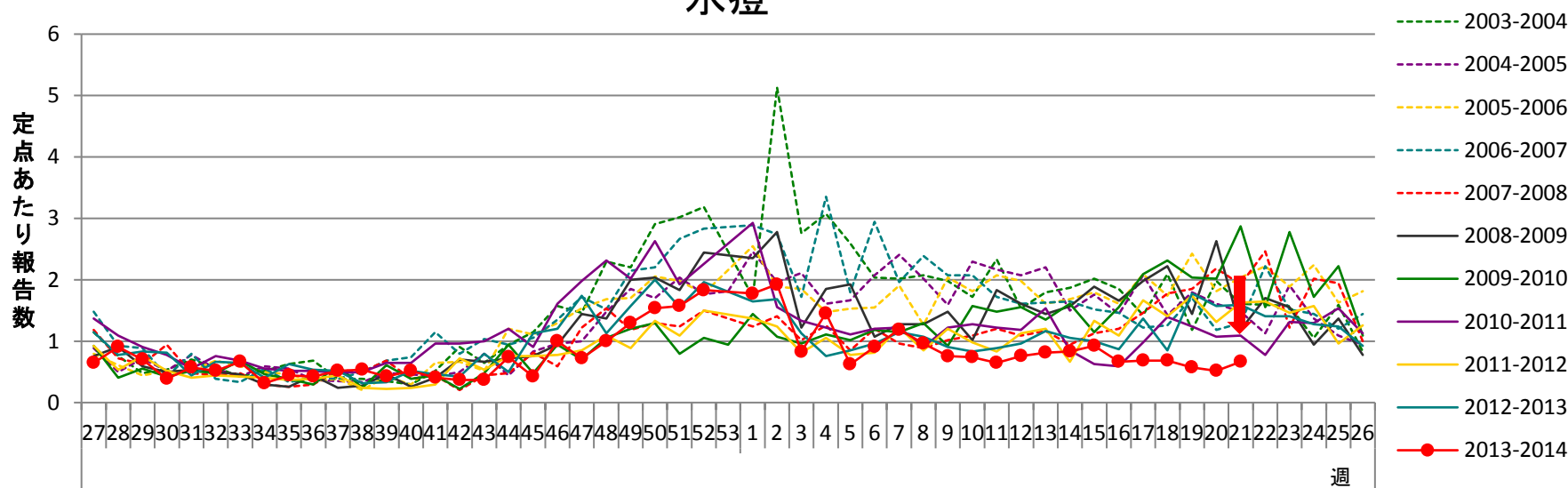
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



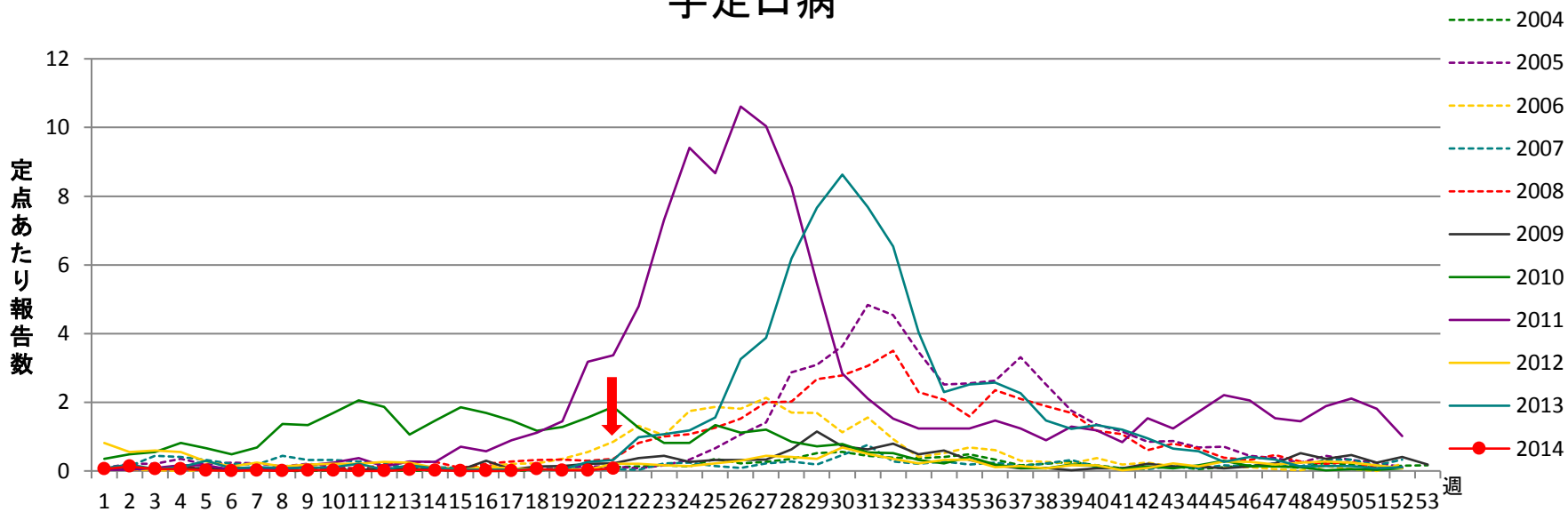
### 感染性胃腸炎



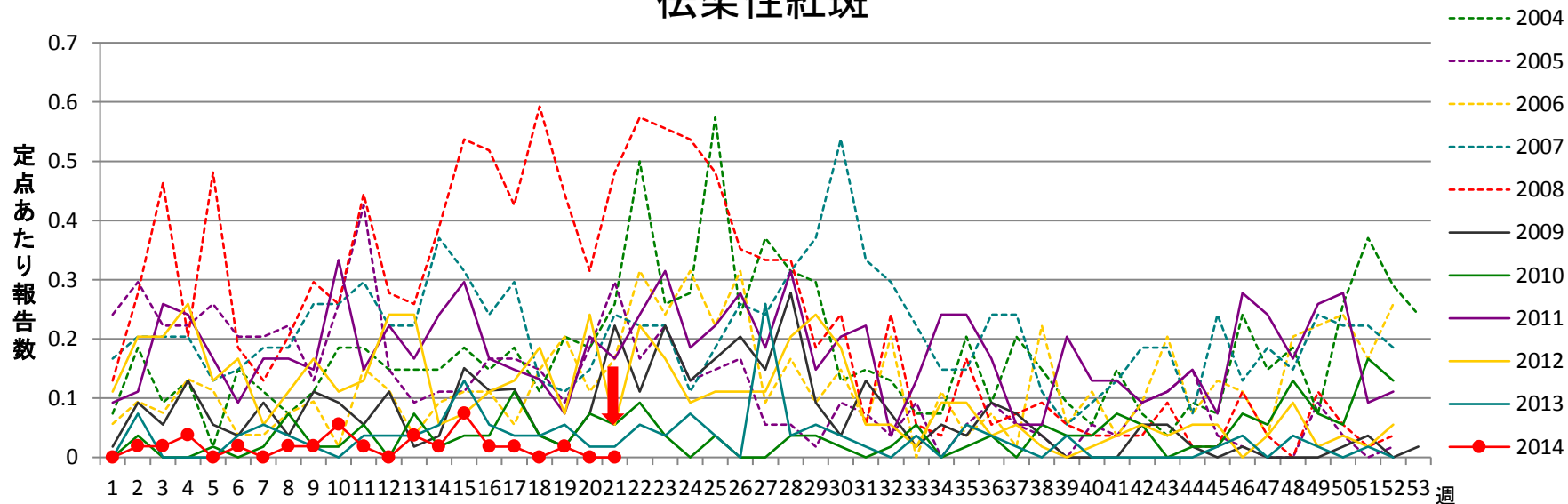
### 水痘



### 手足口病

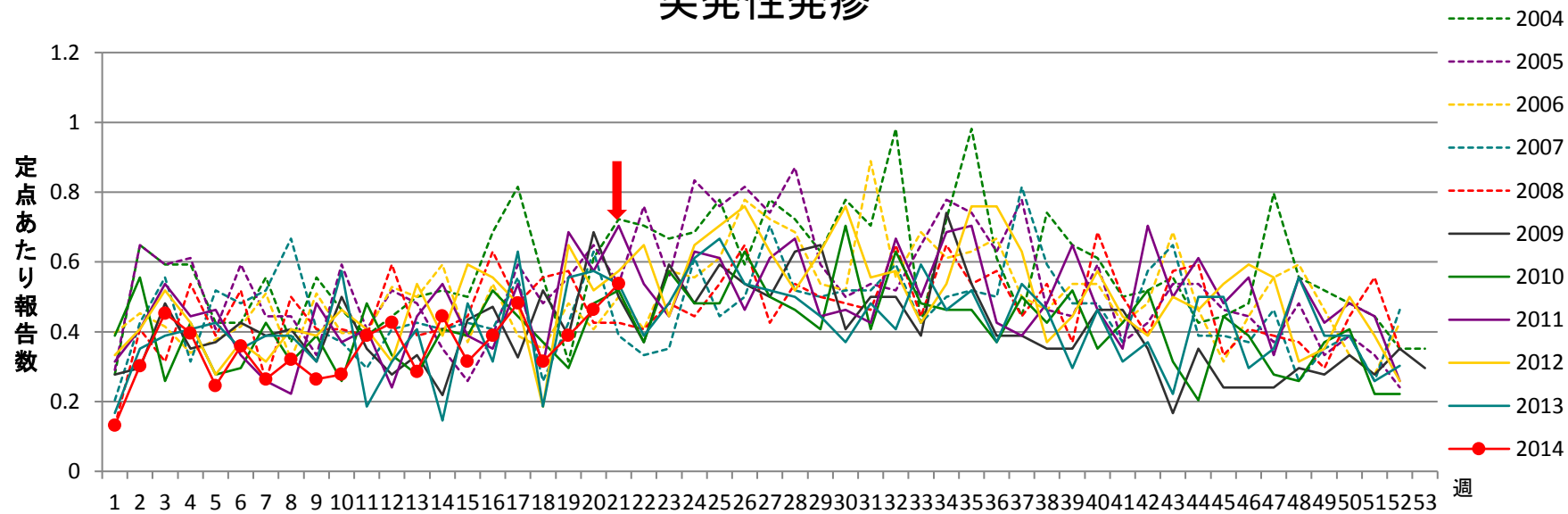


### 伝染性紅斑

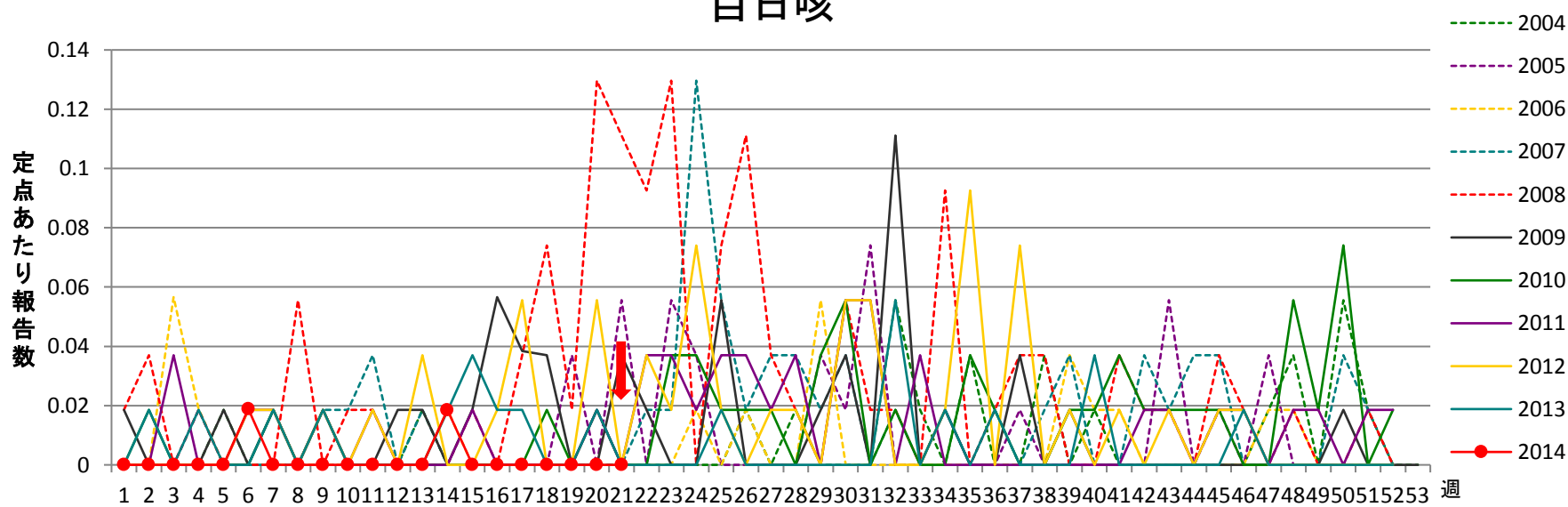




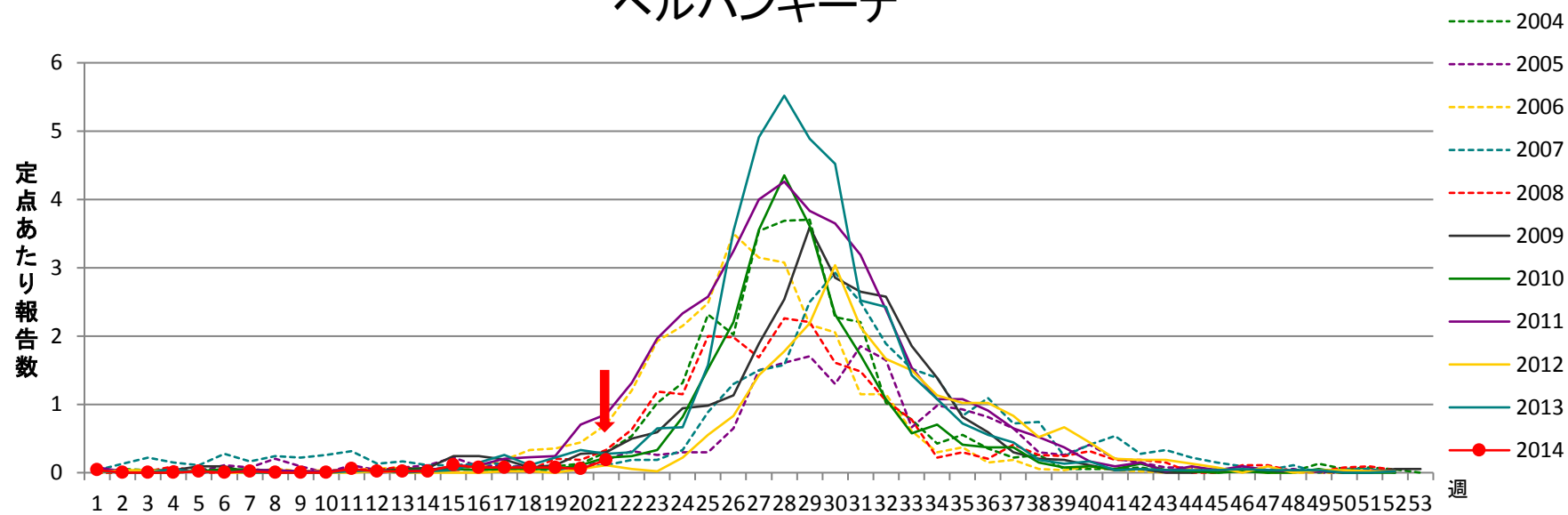
### 突発性発疹



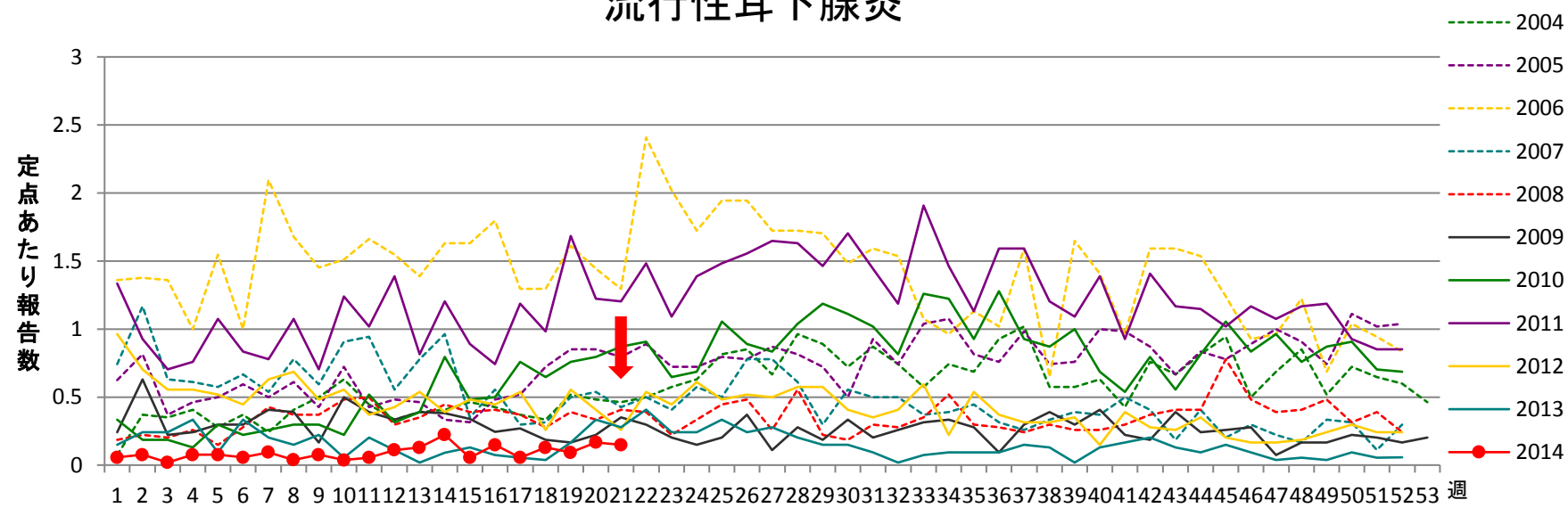
### 百日咳



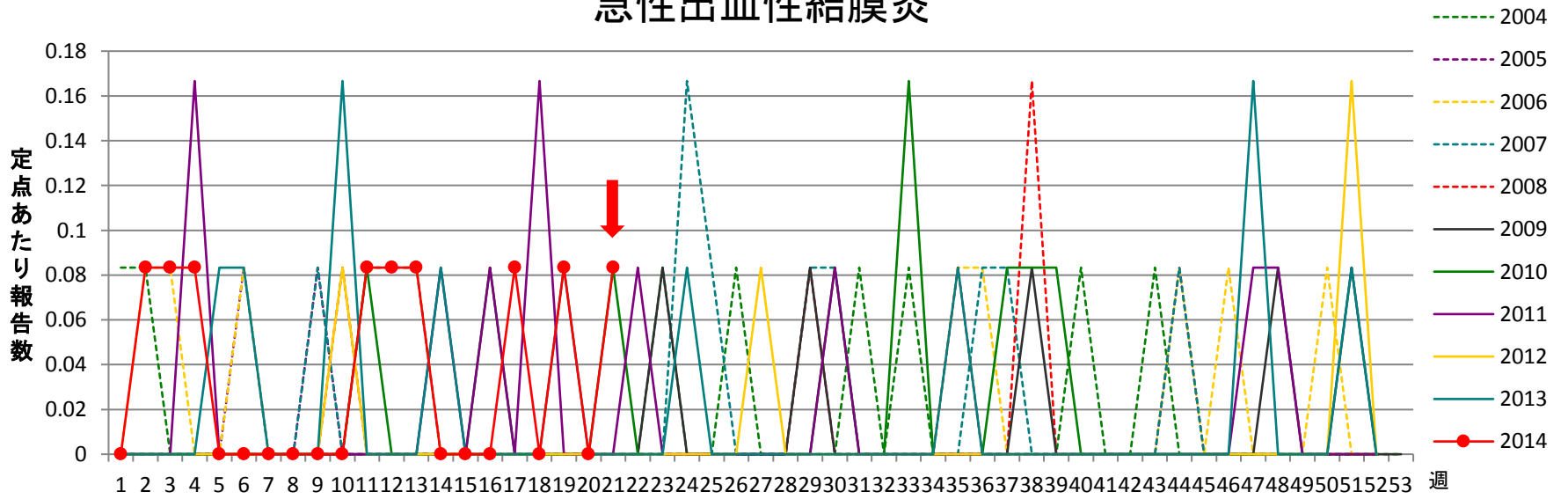
### ヘルパンギーナ



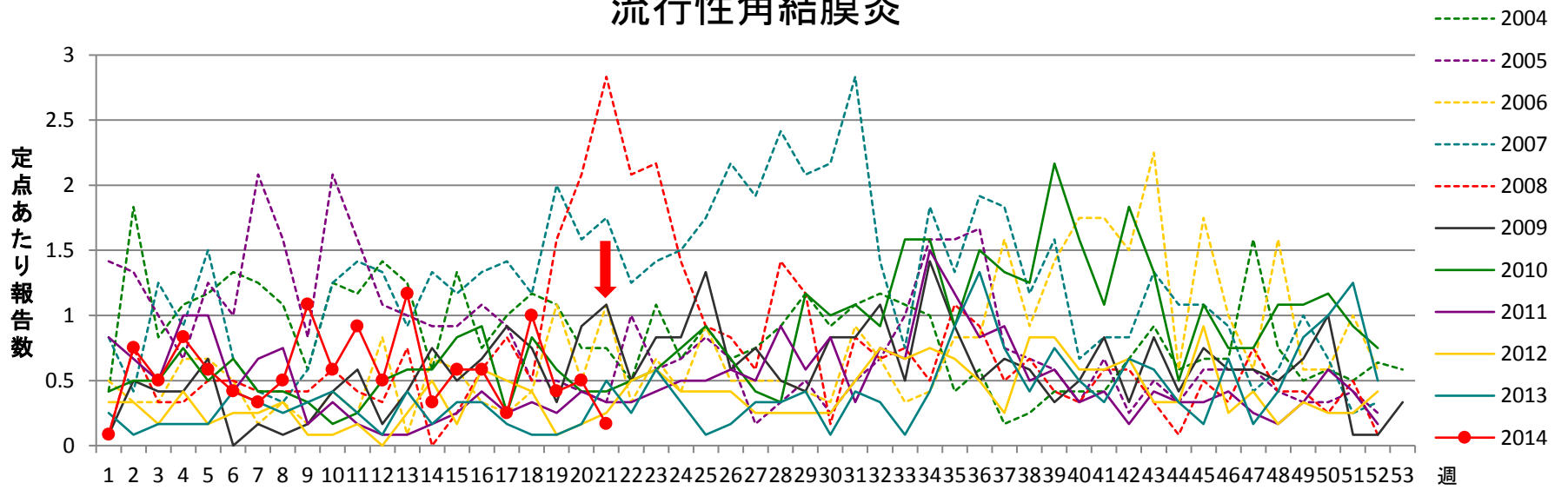
### 流行性耳下腺炎



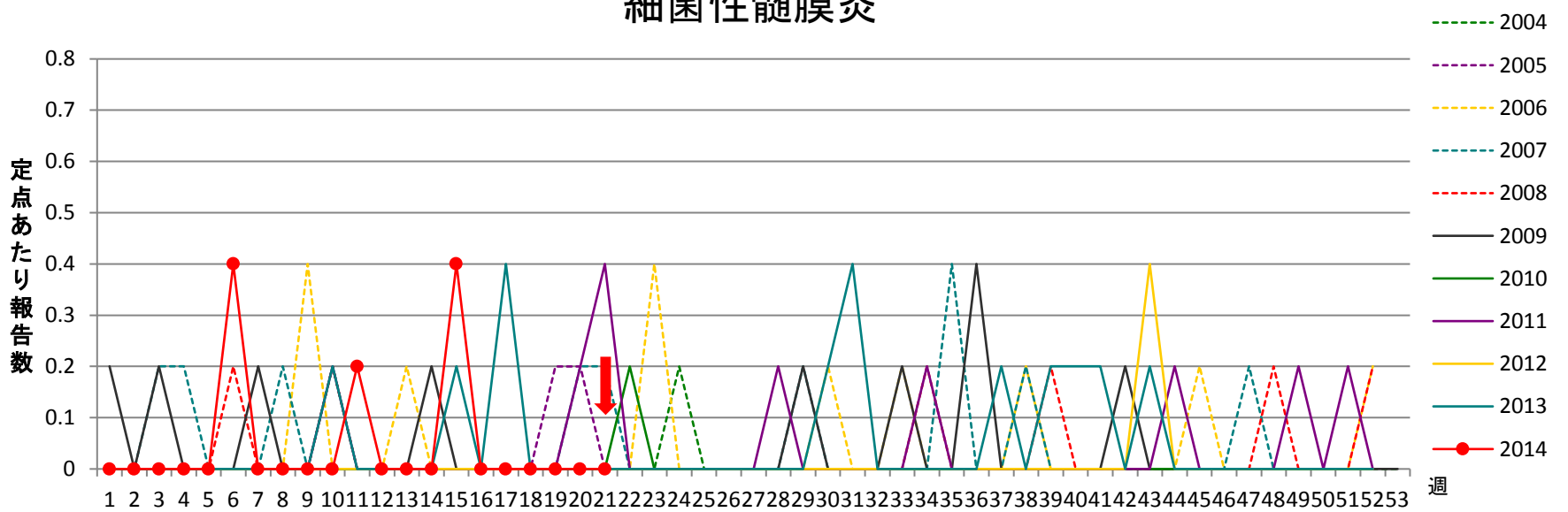
### 急性出血性結膜炎



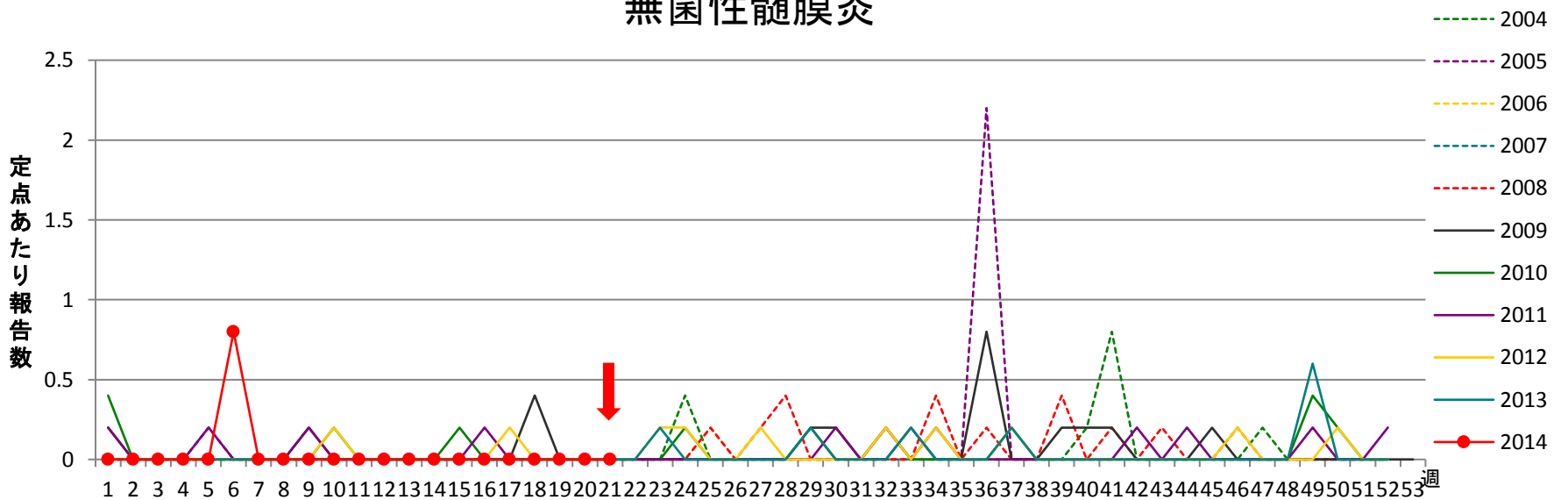
### 流行性角結膜炎



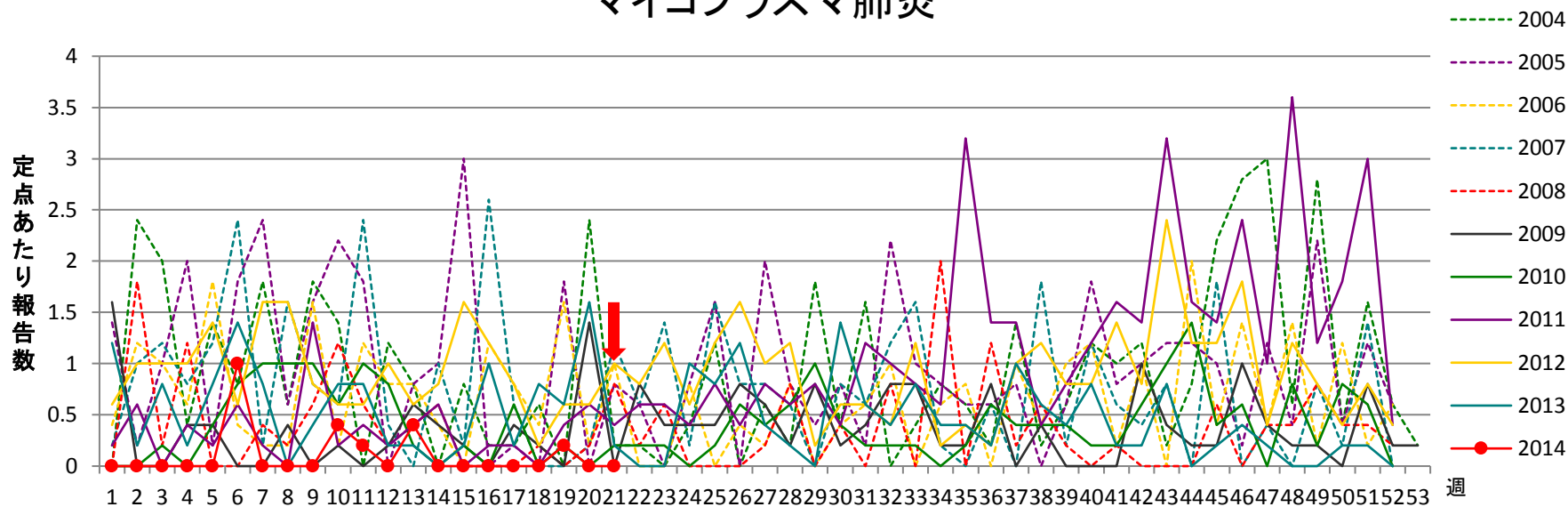
### 細菌性髄膜炎



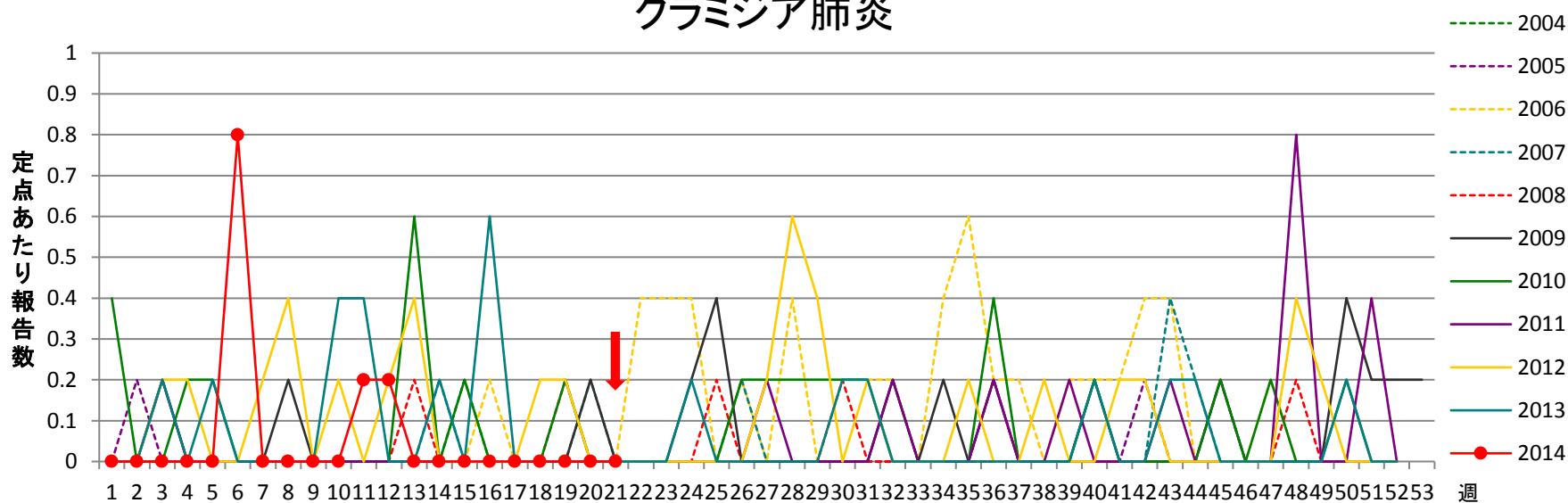
### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎



### 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

